令和 2 年度　東京都内湾水生生物調査　10 月鳥類調査　速報

●実施状況

令和 2 年 10 月 5 日に鳥類調査を実施した。天候は曇り時々小雨で、気温 22.5～24.1℃、北～南の風、風速 1.2～3.0m/sec であった。調査当日は大潮で、干潮が 12 時 36 分（79cm）、満潮は 18 時 19 分（191cm）であった（気象庁のデータ）。各地点の概況を下表に示す。

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚(東なぎさ)
作業時刻	11:05-11:49	12:20-12:56	9:05-10:22
天候	曇り	曇り	小雨
気温(℃)	22.9	24.1	22.5
風向	南	北西	北東
風速（m/sec）	1.2	2.0	3.0
備考	公園側に人の立ち入りはほとんどない。	最干潮時刻でも干潟の干出は少なかった。	潮が高く、干潟の干出が少なかった。

●主な出現種等

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚(東なぎさ)
数が多かった鳥類上位 2 種	カワウ(693 羽) カルガモ(69 羽)	ウミネコ(90 羽) アオサギ(28 羽)	ウミネコ(336 羽) カワウ(242 羽)
備考	・重要種として 5 種を確認（ダイサギ、イソシギ、オオセグロカモメ、ミサゴ、トビ）。 ・第六台場でカワウやサギ類を確認したが、営巣は見られなかった。 ・カワウは鳥の島に多く、合計 579 羽が護岸や水面に見られた。アオサギも鳥の島に多く、13 羽が護岸で休息。 ・カルガモとヒドリガモがお台場海浜公園で休息。カルガモは第六台場付近でも飛翔する 16 羽を確認。 ・上空をミサゴが飛翔。	・重要種として 5 種を確認（ダイサギ、イソシギ、オオセグロカモメ、ミサゴ、トビ）。 ・干潟でカワウ、アオサギ、ユリカモメ、ウミネコ、セグロカモメ、オオセグロカモメが休息。 ・護岸でイソシギが採餌。 ・コガモ 2 羽が上空を飛翔。 ・ミサゴ 3 羽が干潟付近で飛翔・休息。	・重要種として 10 種を確認（ダイサギ、コサギ、ヒクイナ、シロチドリ、タシギ、ダイシャクシギ、イソシギ、オオセグロカモメ、ミサゴ、トビ） ・干潟でシロチドリとダイシャクシギが採餌・休息。タシギが岸辺の草地から飛び立った。 ・干潟でアオサギとダイサギが採餌・休息。アオサギは護岸で休息する個体が多かった。 ・干潟でウミネコ、オオセグロカモメが休息。 ・干潟でコガモ 6 羽が休息。 ・ヨシ原の 2 個所からヒクイナの鳴き声。 ・沖合では浚渫工事の構造物でウミネコが休息。ミサゴ 2 羽が杭の上で休息。

●出現種と個体数

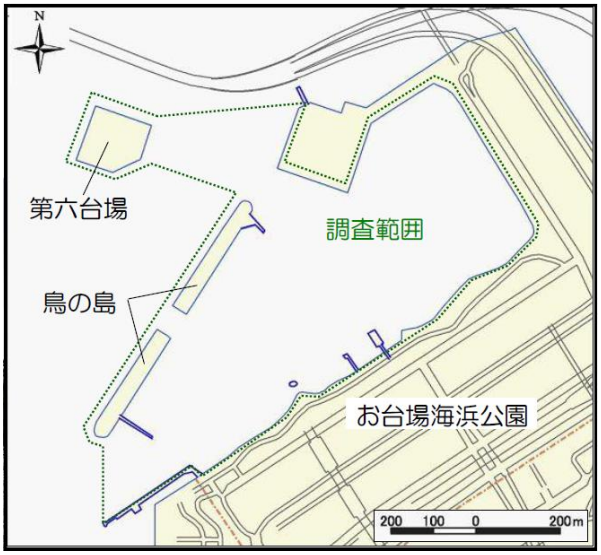
No.	目	科	種名	7月								8月								9月								10月								重要種 選定基準			
				お台場海浜公園				森ヶ崎の鼻	葛西人工渚(東なぎさ)			お台場海浜公園				森ヶ崎の鼻	葛西人工渚(東なぎさ)			お台場海浜公園				森ヶ崎の鼻	葛西人工渚(東なぎさ)			お台場海浜公園				森ヶ崎の鼻	葛西人工渚(東なぎさ)			文化財*1保護法	種の*2保存法	環境省*3 RL 2020 鳥類	東京都*4 RDB 2013 (区)
				第六台場	鳥の島	公園側	合計		範囲内	沖合	合計	第六台場	鳥の島	公園側	合計		範囲内	沖合	合計	第六台場	鳥の島	公園側	合計		範囲内	沖合	合計	第六台場	鳥の島	公園側	合計		範囲内	沖合	合計				
1	カモ	カモ	ヒドリガモ																											2	2								
2			マガモ						1		1																												
3			カルガモ	2	5	4	11	7	14		14			8	8		10		10		1	22	23	8	1		1	16		53	69								
4			コガモ																													2	6		6				
5			スズガモ						2		2		1		1		2		2																				留
6	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ																			1	1																NT
7	カツオドリ	ウ	カワウ	464	81	9	554	115	1493	418	1911	166	79	7	252	21	1057		1057	77	97	6	180	757	149	97	246	113	579	1	693	8	237	5	242				
8	ペリカン	サギ	ヨシゴイ						3		3																											NT	CR
9			ササゴイ					2																															CR
10			アオサギ	11	9	1	21	14	14	1	15	6	7	1	14	17	11	18	29	2	9	5	16	25	20	15	35	1	13	3	17	28	24		24				
11			ダイサギ	1			1	2	15		15	1			1	13	11	2	13	3			3	19	25		25	1			1	1	9		9				VU
12			チュウサギ	3		1	4																	1	1		1											NT	VU
13			コサギ	4	1		5	1	13		13					1	4		4					2	7		7						4		4				VU
14		トキ	クロツラヘラサギ						1		1																										国内	EN	CR
15	ツル	クイナ	ヒクイナ																						1		1						2		2			NT	CR
16	チドリ	チドリ	ケリ																						1		1											DD	VU
17			ムナグロ													2																							VU
18			コチドリ					1	6		6					2								1	2		2												VU
19			シロチドリ						2		2														32		32						46		46			VU	VU
20		シギ	タシギ																														3		3				VU
21			チュウシャクシギ					11																	1		1												VU
22			ダイシャクシギ															2	2							2	2						3		3				CR
23			アオアシシギ														1		1																				NT
24			キアシシギ										1		1	6																							VU
25			ソリハシシギ														2		2																				VU
26			イソシギ		1		1	1	1		1		10	1	11	2	2		2		7	5	12	3	1		1		2	1	3	4	2		2				VU
27			トウネン																						3		3												NT
28		カモメ	ユリカモメ													11								22								5	99		99				
29			ウミネコ			1	1	9	102	155	257		5	1	6	144	673	5	678			4	4	36	907	415	1322	5	8	2	15	90	280	56	336				
30			セグロカモメ																													13	1		1				
31			オオセグロカモメ					2	9	67	76					1	63		63					3	61	193	254			1	1	1	67		67			NT	
32			コアジサシ					57																														VU	EN
33			アジサシ																							1	1												
34			ハジロクロハラアジサシ					1																															
35	タカ	ミサゴ	ミサゴ															1	1		1		1			2	2	1			1	3		2	2			NT	EN
36		タカ	トビ											1	1		5		5		1		1	5	1		1	1	1		2	2	1		1				NT
37	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ																					1															EN
38	スズメ	セキレイ	ハクセキレイ			1	1	3				1	1	1	3	1	1		1		1	2	3	4						2	2	1	1		1				
計 9目13科38種				6種	5種	6種	9種	14種	14種	4種	14種	4種	7種	7種	10種	12種	13種	5種	15種	3種	7種	7種	10種	14種	16種	7種	19種	7種	5種	8種	11種	12種	16種	3種	17種	0種	1種	9種	25種

※種の分類・配列は「日本鳥類目録　改訂第7版」（日本鳥学会,2012)に従った。
A:大型カモメに分類されるセグロカモメが確認されているので「大型カモメ」は確認種数には数えない。
*1文化財保護法:
*2種の保存法: 国際:国際希少野生動植物種 国内:国内希少野生動植物種
*3環境省レッドリスト: VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧
参照：http://www.biodic.go.jp/rdb/rdb_f.html
環境省自然環境局野生生物課. 2020年. 環境省第4次レッドリスト.
*4東京都RDB2013(区部)： CR:絶滅危惧IA類、EN:絶滅危惧ⅠB類、VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧、留:留意種、DD:情報不足
東京都環境局自然環境部. 2013年. 東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドデータブック～ 2013年版.

＜お台場海浜公園＞

〇調査地点の状況

第六台場・鳥の島ではカワウ、サギ類の営巣は終了していた。



〇出現種（カワウ）

第六台場、鳥の島いずれも繁殖活動は終了しており、使用中の巣は見られなかった。カワウは第六台場の樹林に 113 羽見られたほか、鳥の島に 579 羽、公園側に 1 羽と、多くの個体が鳥の島に分布していた。

鳥の島のカワウの群れと、第六台場の樹上にとまるカワウ（右上）

〇出現種（カルガモ、ヒドリガモ）

お台場海浜公園の砂浜で休息するカルガモの群れと、水面から飛び立つヒドリガモ 2 羽が観察された。カモ類は人の立ち入りが規制されているお台場海浜公園北東側の汀線付近に多く集まっていた。

カルガモ　ヒドリガモ

〇出現種（ミサゴ、トビ）

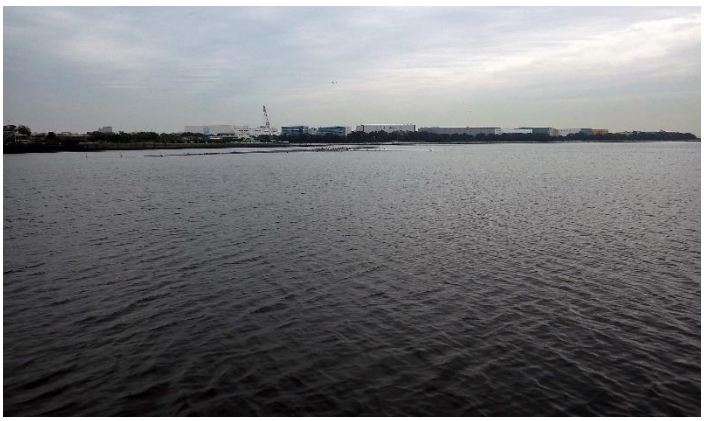
タカ類はミサゴとトビの 2 種が確認された。ミサゴは幼鳥で、第六台場付近から南に飛び去った。出現時は低空だった事から、直前まで第六台場に降りていた可能性がある。トビは第六台場の樹上にとまり休息していた。

海上を飛ぶミサゴ　第六台場のトビ

＜森ヶ崎の鼻＞

○調査地点の状況

最大干潮時刻だが、干潟は狭かった。



○出現種（イソシギ）

シギ・チドリ類はイソシギ 4 羽が確認された。護岸で採餌のほか、水面を低空で飛翔するのが観察された。

イソシギ

○出現種（ミサゴ、トビ）

ミサゴは幼鳥 3 羽が出現し、水面付近への降下や杭にとまって休息するのが観察された。水中へのダイビングが 1 回あったが、捕食には失敗した。このほか、トビ幼鳥 2 羽が干潟で死んだ魚を採餌していた。

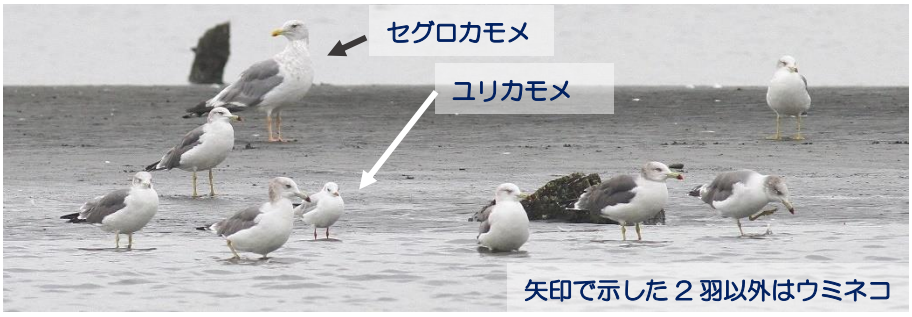
ダイビングするミサゴ

トビ

○干潟利用状況

干潟は狭く、調査地北東端付近だけが干出し、ウミネコとセグロカモメ、ユリカモメ、オオセグロカモメの群れが休息していた。ミサゴが干潟付近を低空で飛ぶため、その度にカモメ類が一斉に飛び立つ様子が見られた。サギ類やカワウは干潟に少なく、主に流木や杭にとまって休息していた。

流木で休息するカワウと
アオサギ（中央の１羽）



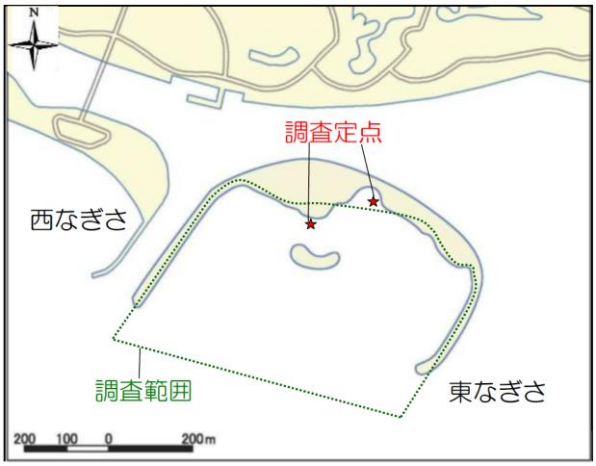
矢印で示した２羽以外はウミネコ

＜葛西人工渚（東なぎさ）＞

○調査地点の状況

干潟が干出し始めたばかりの状態で、潮位が高かった。

西側の地点より南西方向を見る



○出現種（シギ・チドリ類）

干潟にシギ・チドリ類の個体数は少なく、カモメ類に混じって採餌・休息するダイシャクシギ 3 羽、草地から飛び立つタシギ 3 羽、イソシギ 2 羽が観察された。シロチドリは個体数が次第に増加し、調査終了時には最大 46 羽が干潟で採餌していた。ダイシャクシギは東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠA 類（CR）に、タシギとイソシギは絶滅危惧Ⅱ類（VU）に、シロチドリは環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類（VU）、東京都レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されている。

ダイシャクシギ

タシギ

シロチドリ

○出現種（ヒクイナ）

ヨシ原の 2 個所で鳴き声が聞かれた。姿は直接確認できなかった。ヒクイナは環境省レッドリストで準絶滅危惧（NT）、東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠA 類（CR）に指定されている。

○出現種（カワウ）

干潟が狭いためか、多くのカワウは東なぎさの消波ブロックにとまって休息しており、干潟には少なかった。同じ消波ブロックでアオサギの小群も休息していた。

消波ブロックにとまるカワウ

○出現種（コガモ）

カモ類はコガモ 1 種だけが確認された。6 羽が干潟で休息した後、一斉に飛び立って西なぎさ方面に飛去した。

干潟に降りたコガモ

○干潟利用状況

干出し始めた干潟にはウミネコ、オオセグロカモメ、セグロカモメ、ユリカモメが飛来し、次第に個体数が増加した。カモメ類は大半の個体が休息していた。

＜その他＞

〇ウミネコの繁殖

令和 2 年 7 月の調査で繁殖を確認した構造物上では、今回ウミネコの繁殖は確認されなかった。構造物上と周辺に成鳥 1 羽と若鳥 3 羽がいたが、繁殖に関わる行動は見られなかった。

ウミネコが営巣する構造物

＜トピックス＞

－ オオミズナギドリ －

葛西人工渚の沖合（東なぎさから推定 2～3km 南方）を飛ぶオオミズナギドリ 89 羽が確認された。海上の広い範囲を散発的に飛び、多くの個体が西から東に向かっていた。本種は東京湾で秋に記録されることが多いが、主に沖合にいて岸付近まで来ることは少ない。過去の調査では記録がなく、今回の調査でも出現したのはすべて調査範囲外であった。